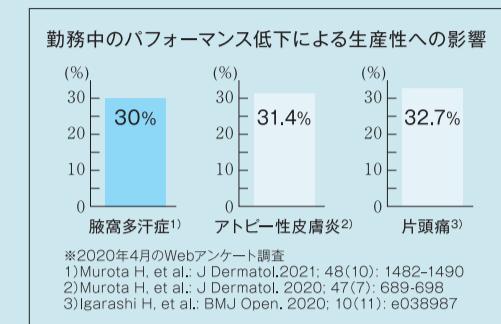


ワキ汗の悩みが、うつ、自信喪失、脱力感につながり生産性の30%が失われている。

ワキ汗が気になつて、プレゼンに集中できなかつた。自身があるいは同僚にそんな経験をしている人はいませんか。5歳から64歳の男女を対象に行つたアンケート調査によると、ワキ汗の原因の一つである原発性腋窩多汗症の有病率は5・75%※1（およそ20人に1人）という結果となりました。患者さんにとっては医療費や



ワキ汗による、経済損失が月3120億円と試算。※1

ワキ汗を気にすることで
著しく下がる仕事の
パフォーマンス。

個人だけでなく企業、
社会にとつての大きな問題です。

意識調査によると、多汗症を認知しても病院で治療を受けている人は10%以下。

腋窩多汗症患者への意識調査によれば、病気としての認知があつても治療に踏み切る人は1割未満^{※3}だといいます。池袋ニック院長の藤本智子先生は「多くの患者さんが相談することもできず一人で悩んでいる状況にあり、調査の中で希望の職業や職種に就けなくなること

も分かりました。悩みを打ち明けるだけで改善がみられるケースもありますから、とにかく一度、気軽に皮膚科の専門医を訪ねてほしい」と受診を後押しします。患者さんの中には、男性の医師だと相談しにくい（女性）、ワキを人に見せるのが恥ずかしいといった、病院に行きづらい理由もあり、治療にあたる医師や受け

方が少なからずいること



池袋西口ふくろう
皮膚科クリニック 院長
藤本 智子先生

入れ環境の整備など、病院側の配慮も患者さんの心のハードルをさげることにつながります。多くの治療が保険適用の範囲内であり、病院の受診率が高まれば、患者さんの悩みの解消だけでなく、経済損失を回復することにつながります。

命にかかる病気でなくても悩みは大きい。
科研製薬はすべての人のウェルビーイングを目指す。

腋窩多汗症は命を落とすような病気ではありません。しかし、罹患した当事者にとっては、人生を左右しかねない大問題になることがあります。科研製薬は、比較的気軽に治療を進められる画期的な塗り薬などの製品開発を通じて医療に貢献するだけでなく、ワキ汗で悩んでいる方々が自分らしく安心して生活できる

多汗症は体質ではなく疾病。ワキ汗は治療することで大きな改善が見込める病気。

どの出費が負担となり、さらには「人目が気になる」「汗を伝う不快感」といった心理的負担からくる生産性の低下という問題がのしかることに。日本におけるワキ汗の金銭的な負担と、30%も低下するという生産性※2をもとに試算した経済損失は合計

すると1カ月で3120億円にも上るといわれます。この試算の中心となつた東京医科歯科大学の横関博雄名誉教授は、「生産性の低下は、ワキ汗の悩み

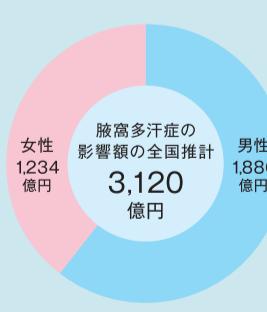
をきっかけとする抑うて引き起こされます。たとえば出勤していても仕事に身が入らない状態の場合もあり、放つておけば、業務に大きな支障を来すことになり、企業や社会にとって看過できない問題」と警鐘を鳴らしています。

多汗症は以前ならただの「汗つかき」としてあまり気に留められなかつたかもしれません。しかし実際に体質だから仕方ないと片付けるのではなく、業界では、局所的に過剰な発汗がありません。現在の基準で病気として認知し、治療した方がよい症例が少なくありません。現在の基準では、局所的に過剰な発汗が明らかな原因がないままに6カ月以上認められ、下の6項目のリストのうち、

6項目があてはまる場合に多汗症と診断されます。現在の基準では、ワキを医師に見せなくとも、問診に診断を受け、症状の程度、治療法の安全性、ライフスタイルや費用負担を考慮して、ご自身にあった治療法が選べます。塗り薬、注射、手術の他、ケースによつては神経ブロックやレーザー療法、内服療法、

汗の悩みチェックリスト	
2つ以上思い当たるなら医師に相談を。	
① 最初に症状が出たのが25歳以下であること	
② 左右対称に汗をかいてしまうこと	
③ 睡眠中は発汗が止まっていること	
④ 1週間に1回以上汗で困ることがあること	
⑤ 家族に同じような状況がみられることがある	
⑥ 汗によって日常生活に支障をきたすことがあります	

精神（心理）療法を併用して改善、治癒を目指すことができます。



「あなたに笑顔」科研製薬の願いです。
科研製薬株式会社



ワキ汗治療の方法や
医療機関はこちら（ワキ汗治療ナビ）▼
<https://wakiase-navi.jp>